

日本人学生アスリートが米国大学入学に至るプロセス

－複線経路・等至性モデル(Trajectory Equifinality Model) による分析－

芝井 良太 (筑波大学)

1. 目的

本研究の目的は、米国の大学に所属しスポーツを行う日本人学生アスリートの現状・実態及び、複線経路・等至性モデルを用いて日本人学生アスリートが米国の大学に入学するまでのプロセス、異なる入学までのプロセスの中に存在する共通した事象・経験を明らかにすることである。

2. 研究方法

NCAA より公表されている資料を整理し、現状の把握をする。さらに日本人学生アスリートの具体的な状況を明らかにするために、中学生時代から現在に至るまでの時間的変化と社会的・文化的な背景や文脈を捨象せずに描き、共通した経験を明らかにすることとした。

調査対象：NCAA の Division1 の大学に所属する日本人学生アスリート 3 名。

分析方法：複線経路・等至性モデルを用いた分析。

3. 結果と考察

1) 日本人学生アスリート数の現状

2018 年シーズンにおける日本人学生アスリート数は 134 名で、近年 Division1 において顕著に増加している。また最も日本人学生アスリートが多い競技は女子テニスであった。

背景には米国大学スポーツの国際化があり、優秀な米国人選手を獲得できない大学の監督は、世界中から選手をスカウトしている現状がある。インターネットの普及により、距離的に遠い日本やアジア諸国にもスカウト市場が拡大していることが日本人の増加に寄与していると考えられる。また女子テニスは授業料等が全額免除になる競技の 1 つに定められている。米国大学における授業料の増加は海外留学離れの要因の 1 つである報告されているが、このような経済的支援制度は日本人

学生アスリート数の増加に大きな影響を与えていると推察できる。

2) 米国大学入学までのプロセス

対象とした 3 名が米国大学に入学するまでのプロセスは異なっていた。1 人目は大学院進学時に米国大学に入学した。2 人目は米国の高校に通い大学に入学したが、途中で現在の大学に編入した。3 人目は大学進学時に米国大学に入学した。その中で「米国大学について知る」「米国大学訪問」「入学決断、大学選択」という共通した経験が存在することが明らかとなった。「米国大学について知る」という経験に関して、現在の日本において、海外進学をサポートできる教員が少ないため、中高生が米国の大学について知ることは困難である。また大学生で編入したとしても、出場できる NCAA の公式戦数が非常に少ないという問題がある。一方で、「米国大学訪問」という経験は、3 名にとって重要な転換点であることが明らかとなった。大学施設や環境を直接確認することに加え、指導者との直接的な面談は、後の入学決断、大学選択に大きな影響を与えており、非常に重要な意味を持つ経験であると推察できる。

4. 結論

3 名の入学までのプロセスは異なるが、共通した経験が存在していることが明らかになった。学生アスリートとして米国大学に入学するためには、これらの経験を経る必要があると考えられる。特に「米国大学訪問」という経験は、後の決断や選択に大きな影響を与えることが示唆された。

5. 参考文献

- 1) サトウタツヤ(2006)発達の多様性を記述する新しい心理学方法論としての複線経路等至性モデル, 立命館人間科学研究, 12:65-75